2021. 4～6 No.56

かなしん景況レポート

目　次

景気動向	地域経済(全業種総合)	2
	業種別経済	6
	特別調査	18
お客様景況インタビュー	株式会社　カミノキ　「～最新の技術と設備で高精度な製品づくりへの挑戦　～」	19
トピックス	「神奈川県の景況感について」	3
	「経済指標について：貿易統計」	9

調 査 概 要

調査時期	令和3年5月14日から令和3年6月1日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加（上昇）」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少（下降）」したとする企業の構成比との差（D.I.）を中心にして分析を行いました。

全業種総合天気図

	2020年7～9月	2020年10～12月	2021年1～3月	2021年4～6月	2021年7～9月 来期予想
全業種総合	☔	☂	☔	☔	☂
製造業	☔	☂	☔	☂	☁
卸売業	☔	☂	☔	☔	☔
小売業	☔	☔	☔	☔	☔
サービス業	☔	☔	☔	☔	☔
建設業	☔	☁	☔	☂	☂
不動産業	☂	☁	☁	☁	☂

低調 ← 天気図 → 好調

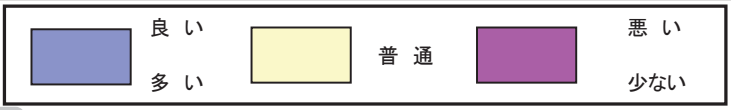
☔ ☂ ☁ ☁ ⛅ ☀ ☀

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。

かながわ信用金庫 かなしん

全業種総合　　回答企業　496社（回答率：99.2%）

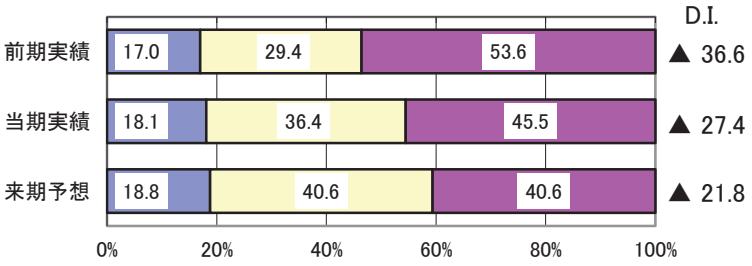
当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲27.4と、対前期比9.2ポイントの改善となりました。業種別に見ると、すべての業種で改善となり、特にサービス業がマイナス水準ながらも20.0ポイントの大幅改善となり、不動産業は唯一プラス水準となりました。全業種の来期予想D.I.は▲21.8と、5.6ポイントさらに改善をする見込みです。

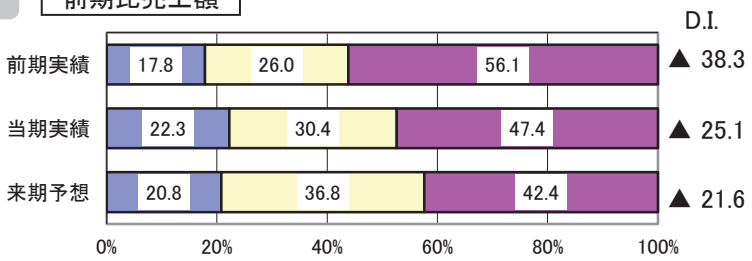
業　況



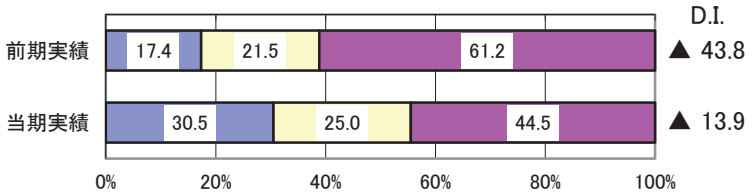
2. 売上額

当期の売上額判断D.I.は▲25.1と、対前期比13.2ポイントの2桁改善となりました。業種別に見ると、すべての業種で改善となり、特にサービス業がマイナス水準ながらも23.7ポイントの大幅改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲13.9と、1～3月期から29.9ポイントの大幅改善となりました。全業種の来期予想D.I.は▲21.6と、3.5ポイントさらに改善をする見込みです。

前期比売上額



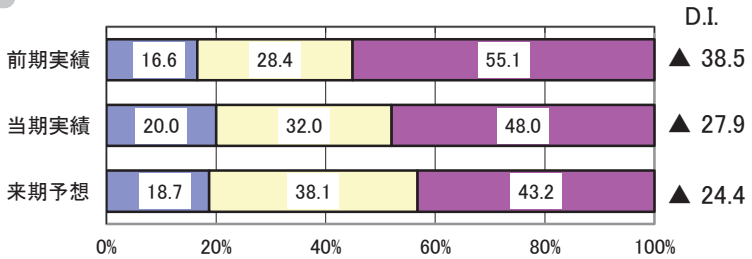
前年同期比売上額



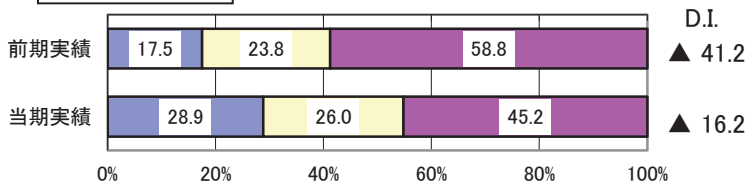
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲27.9と、対前期比10.6ポイントの2桁改善となりました。業種別に見ると、すべての業種で改善となり、製造業、サービス業、不動産業は2桁改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲16.2と、1～3月期から25.0ポイントの大幅改善となりました。全業種の来期予想D.I.は▲24.4と、3.5ポイントさらに改善をする見込みです。

前期比収益

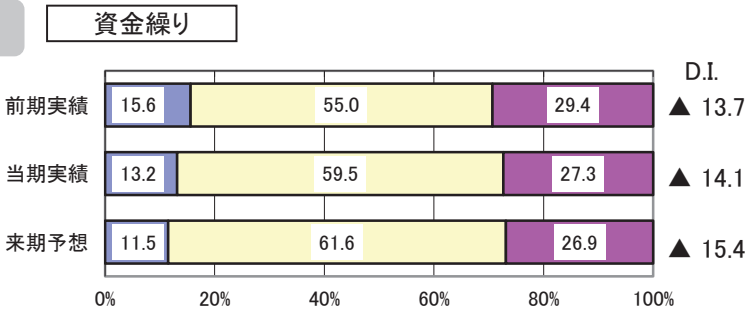


前年同期比収益



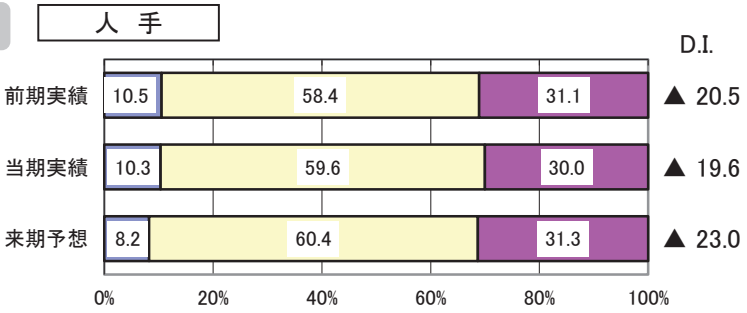
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲14.1と、対前期比0.4ポイントの小幅低下となりました。業種別に見ると、製造業、建設業は改善となり、他の業種は低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲15.4と、1.3ポイントさらに低下する見込みです。



5. 雇　用

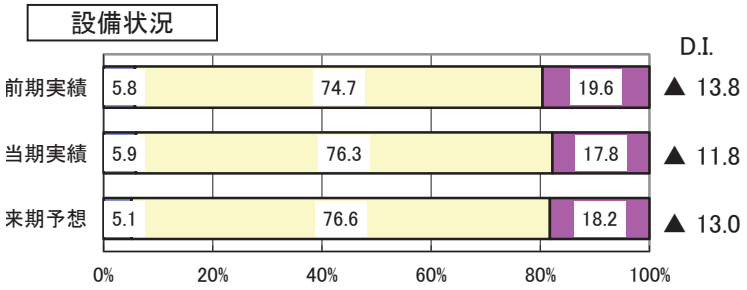
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲19.6と、対前期比0.9ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると、D.I.は卸売業、小売業、不動産業で改善となり、他の業種は低下となりました。数値に着目すると、特に建設業が厳しい水準となっています。全業種の来期予想D.I.は▲23.0と、人手不足感は小幅ながら強まる見込みです。



※雇用判断D.I.（過剰－不足）　マイナスは人手不足

6. 設備状況

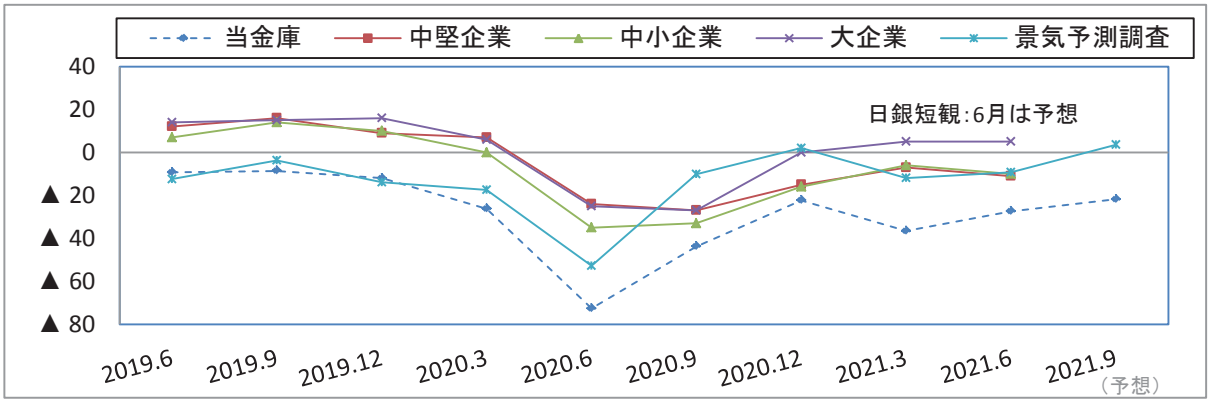
当期の設備状況判断D.I.は▲11.8と、対前期比2.0ポイントの小幅改善となりました。全業種の来期予想D.I.は▲13.0と、設備状況の不足感が再び強まる見込みです。



神奈川県の景況感について

神奈川県金融経済概況(2021年5月分)では、「新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している」と、前月判断が3か月連続で据え置かれました。項目別では〈個人消費〉が引き下げられ、〈住宅投資〉が引き上げられました。また、神奈川県の経済情勢報告(令和3年4月判断)の総括判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている」と前回判断を維持しました。項目別では前回引き上げられた〈生産活動〉と〈企業の景況感〉が引き下げられ、〈住宅建設〉は引き上げられました。さらに全国単位では、5月の月例経済報告の基調判断を「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にある中、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している」として、3か月ぶりに判断が引き下げられました。このように神奈川県、全国ともに新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさが続いています。

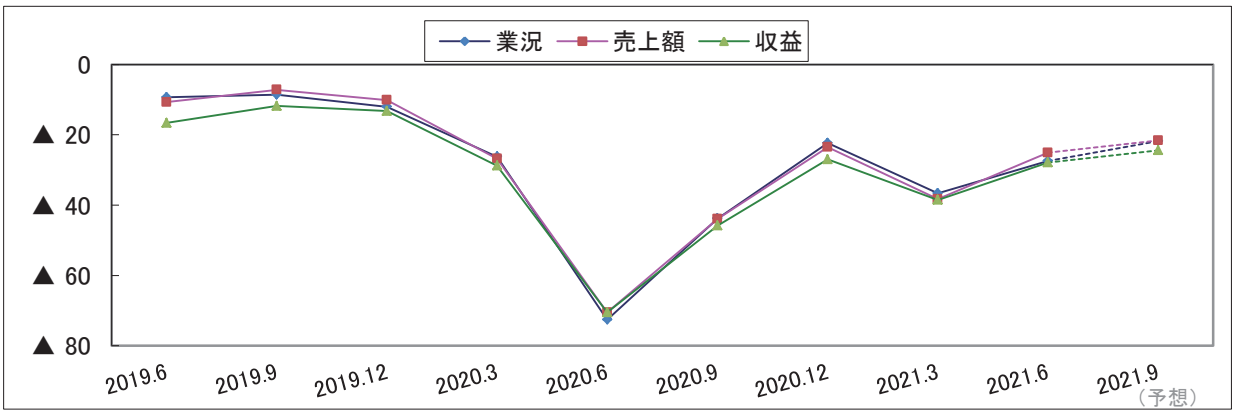
日銀短観（企業規模別）、法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)、当金庫業況DIの推移



「短観（神奈川県分）」（2021年6月分）は2021年7月1日発表予定のため、本レポート作成時点では上記短観の調査結果は確認できていません。ですが発表済みの公的調査の景況感において、一部に弱さがあるものの景況の持ち直しを示していることより、小幅低下もしくは横ばいを示していた前回調査予測値同程度もしくは改善する可能性があると思われます。

関東財務局横浜財務事務所発表の「法人企業景気予測調査」は、2004年度の調査開始以降で最大の低下幅である前期比35.3ポイント低下を示した2020年4～6月期の景況判断指数▲52.8が底となりました。2020年7～9月期、同10～12月期の2期連続改善でプラス水準となりましたが、2021年1～3月期で低下、再度マイナス水準になりました。2021年4～6月期は改善、さらに2021年7～9月期予測でも改善を予想しています。同調査は、従前より振れ幅に違いはあるものの当金庫景気動向調査と近い推移を示しており、今回調査においても、数値的なかい離はあるものの2020年4～6月期に底を示し、その後2期連続改善、2021年1～3月期で低下、2021年4～6月期で改善、2021年7～9月期予想でさらに改善するといった推移が同じであることを確認できる結果となりました。

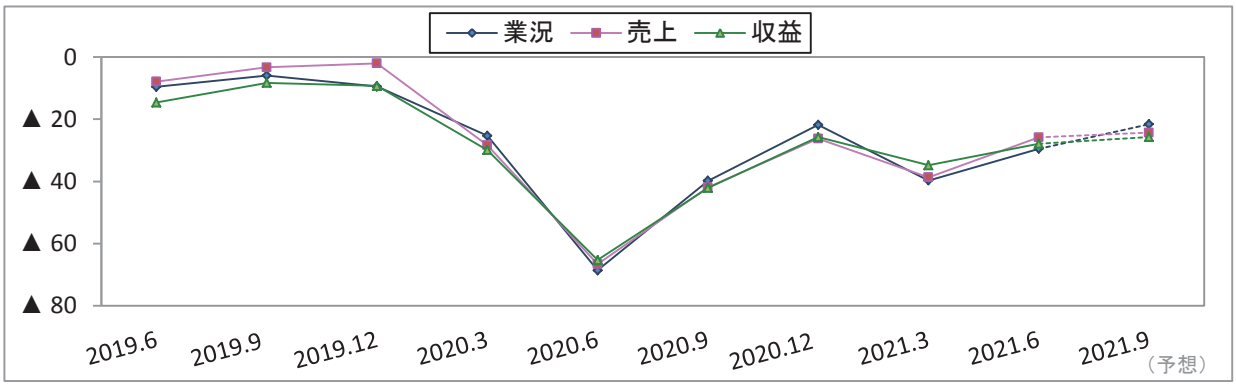
業況・売上額・収益D.I.の推移（全業種総合：当金庫）



2021年4～6月期の業況判断D.I.は▲27.4と、対前期比9.2ポイントの改善となりました。売上額判断D.I.▲25.1、収益判断D.I.▲27.9と、マイナス水準ながらも各D.I.は2桁改善となりました。来期予想についても、各指標とも改善が見込まれています。「設備投資に意欲・関心を持つ経営者が増えてきたように見受けられます」（小売業）というコメントがある一方、「海外に起因する鋼材価格急騰の影響が今後懸念される」（製造業）、「半導体の不足により車両生産が縮小していて、注文をいただいてもオーダーができない」（小売業）、「ウッドショック（木材の入手が困難になり価格が高騰）による影響が長期化した場合、先行きが不安。見通しが立たない」（建設業）といった今後の景況を懸念するコメントが多く寄せられていて、来期予想について、業況は改善を見込んでいますが、まだ先行きを不安視している経営者が多いものと思われます。

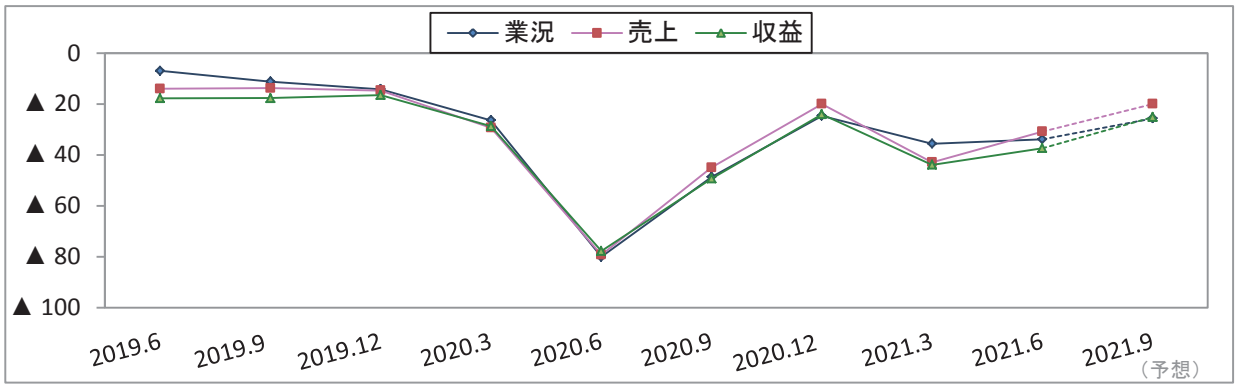
地区別の業況・売上・収益の推移（当金庫）

横須賀地区



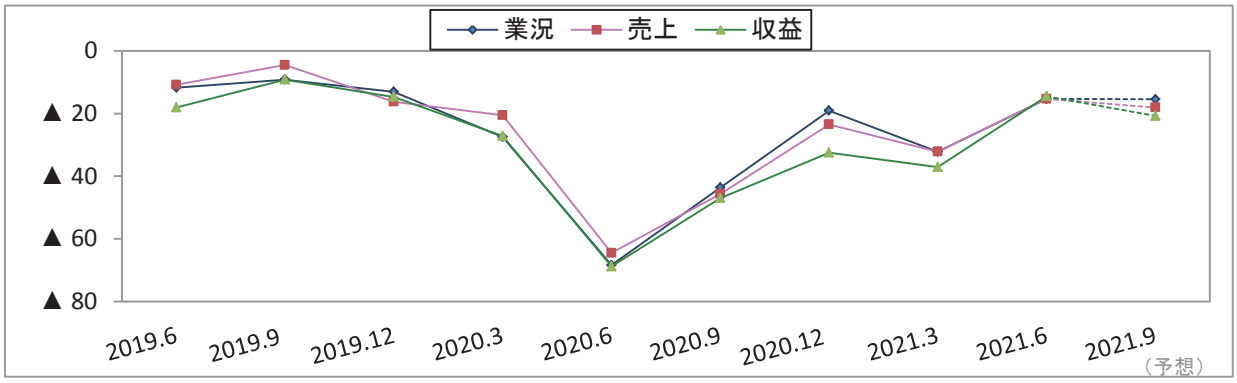
横須賀地区の2021年4～6月期の業況判断D.I.は▲29.5と、対前期比10.2ポイントの2桁改善、売上、収益についても改善となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲21.6と、7.9ポイントさらに改善する見込みで、売上、収益についてもさらに小幅改善をする見込みです。

横浜地区



横浜地区の2021年4～6月期の業況判断D.I.は▲33.9と、対前期比1.7ポイントの小幅改善となりました。売上、収益についても改善する見込みですが、各指標とも最も低い水準の地区となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲25.7と8.2ポイントさらに改善をする見込みです。

藤沢地区



藤沢地区の2021年4～6月期の業況判断D.I.は▲15.4と、対前期比16.8ポイントの2桁改善、売上、収益についても改善し、各指標とも最も良い水準の地区となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲15.5とほぼ横ばいで、今期同様、最も良い水準の地区となる見込みです。

製 造 業　　回答企業　94社（回答率：98.9%）

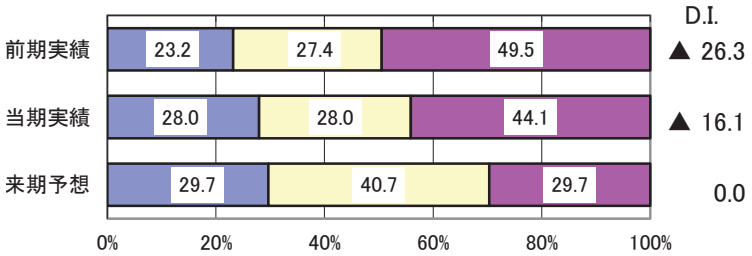
当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）

良い　多い　　普 通　　悪い　少ない

1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲16.1と、対前期比10.2ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は0.0と、16.1ポイントさらに2桁改善をする見込みです。

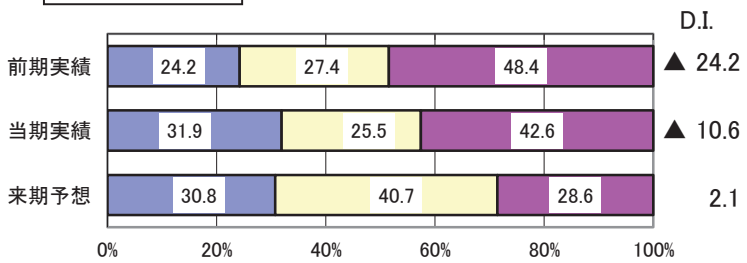
業 況



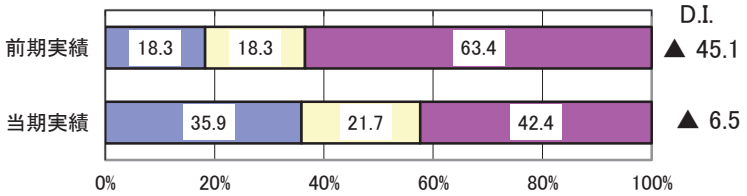
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲10.6と、対前期比13.6ポイントの2桁改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲6.5と1～3月期から38.6ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は2.1と、12.7ポイントさらに2桁改善をし、プラス水準に転じ最も良い水準の業種となる見込みです。

前期比売上額



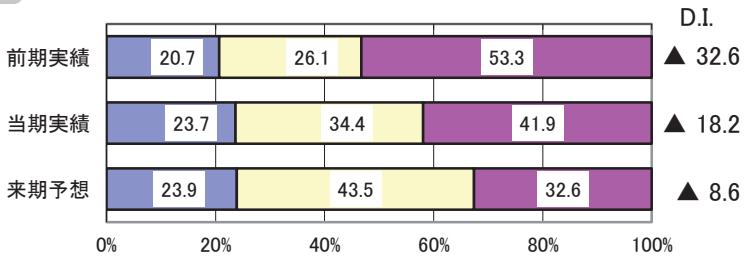
前年同期比売上額



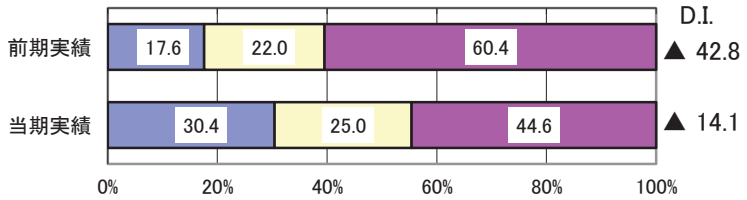
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲18.2と、対前期比14.4ポイントの2桁改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲14.1と、1～3月期から28.7ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲8.6と、9.6ポイントさらに改善をする見込みです。

前期比収益

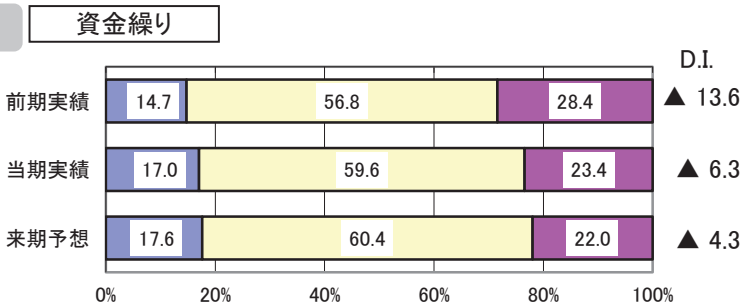


前年同期比収益



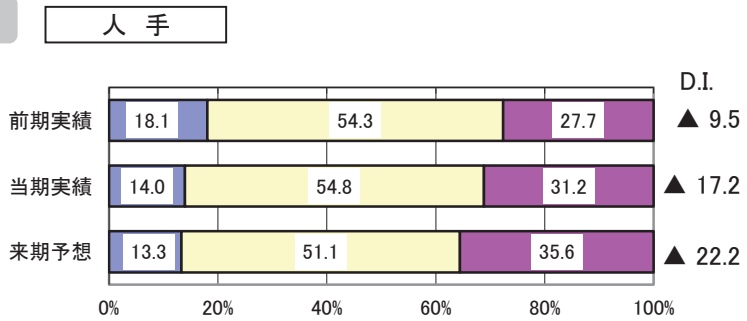
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲6.3と、対前期比7.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲4.3と、2.0ポイントさらに小幅改善をする見込みです。



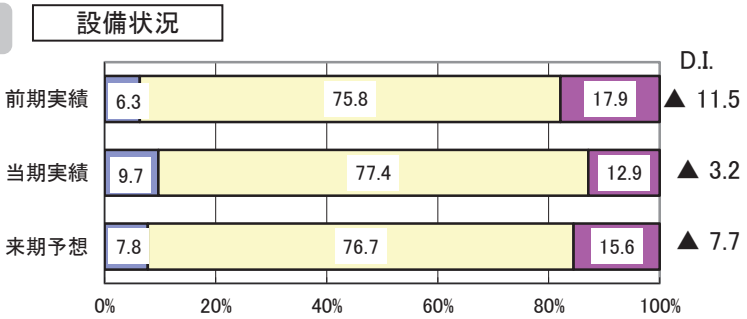
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲17.2と、対前期比7.7ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲22.2と、人手不足感はさらに強まる見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲3.2と、対前期比8.3ポイントの改善となり、マイナス水準ながらも最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲7.7と、不足感は強まる見込みです。

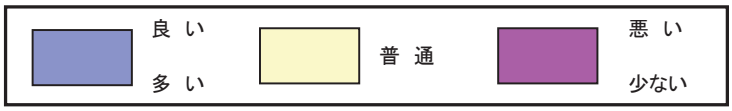


調 査 先 の コ メ ン ト

○新型コロナの影響で取引先の業務形態が安定せず振り回されていて、受注時期、量が見通せない。
○製造業は回復しているが、政府のコロナ対策が見えないので不況になることも予想される。
○海外に起因する鋼材価格急騰の影響が今後懸念される。
○徐々に当社にも影響が出てくるかもしれない。
○造船業は不況ですが、2件の据付工事の案件が受注できたため、当社は活況です。
○新型コロナ拡大以前の水準まではまだ回復していないが、前年度比では業況が底を打ちつつある。
○2020年度のGDP速報値は▲4.6%と戦後最大の落ち幅との報道があり、サービス業等を中心に業況が落ち込んでいる。世間のムードが停滞気味なら結果として産業全体が冷え込むのではと懸念しています。当社では公共工事等で他社がマネできない技術で受注を取る努力をしています。
○コロナ禍により原材料等のコストの上昇が続いており、今後の製品利益率に影響を及ぼす恐れがあります。コロナ禍により原材料等の入手が困難な状況で納期が守れておらず、価格改定の話ができる状況ではなく、当面は自助努力で乗り切らざるを得ません。
○新型コロナに振り回されているが、人材面では恵まれておりコロナ対応シフトを組み始めている。
○コロナ禍で景気動向どころではない。
○製造業はサービス業等に比べまだ良いと思われるが、この先の景気動向は良くないと考えている。
○材料等が品薄のため仕入単価が高くなり、思うように仕入れができなくて仕事が捗らず売り上げがやや減少した。
○親会社からの受注予測は未定が多いが、新規受注は増加傾向にある。

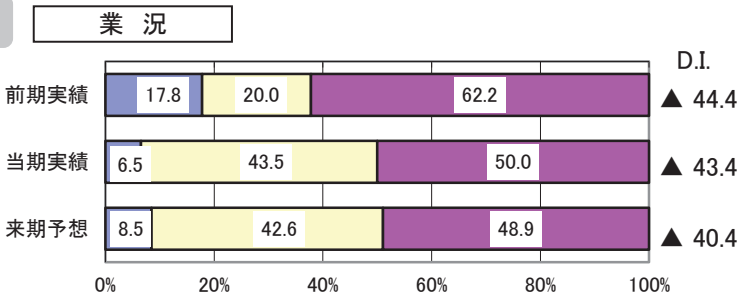
卸 売 業　　回答企業　47社（回答率：97.9%）

当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）



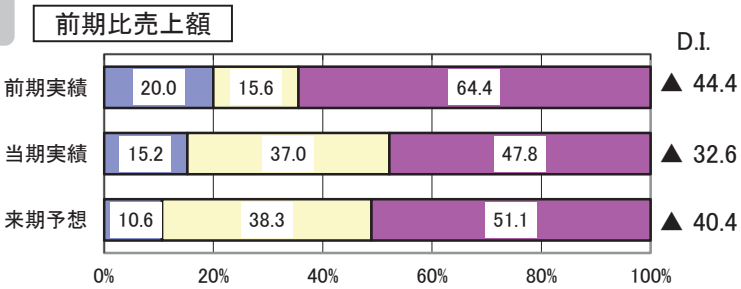
1. 業　況

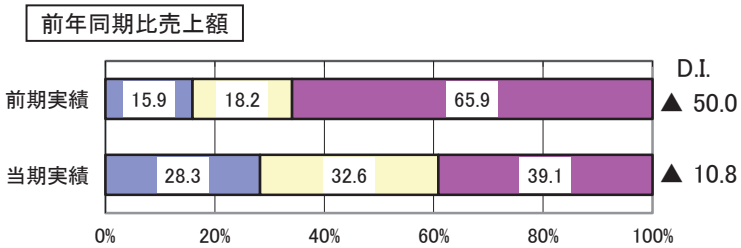
当期の業況判断D.I.は▲43.4と、対前期比1.0ポイントの小幅改善となりましたが、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲40.4と、3.0ポイントさらに小幅改善をする見込みですが、今期同様、最も厳しい水準の業種となる見込みです。



2. 売 上 額

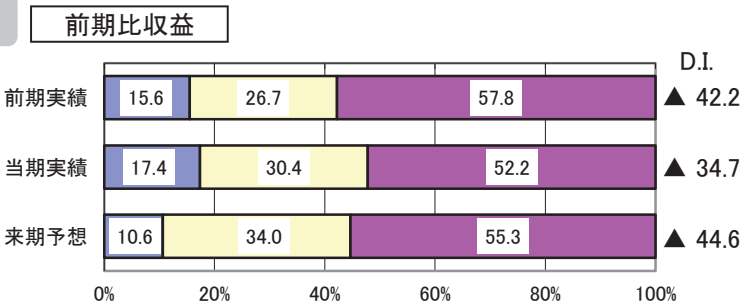
当期の売上額判断D.I.は▲32.6と、対前期比11.8ポイントの2桁改善となりましたが、小売業に次いで厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲10.8と、1～3月期から39.2ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲40.4と、7.8ポイント低下をし、今期同様、小売業に次いで厳しい水準の業種となる見込みです。

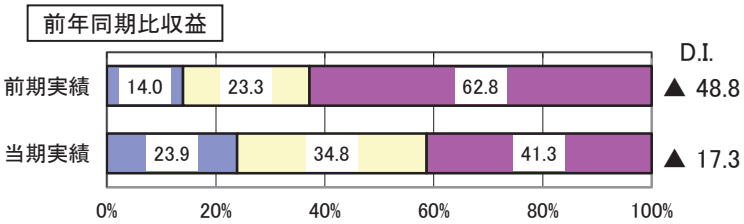




3. 収　益

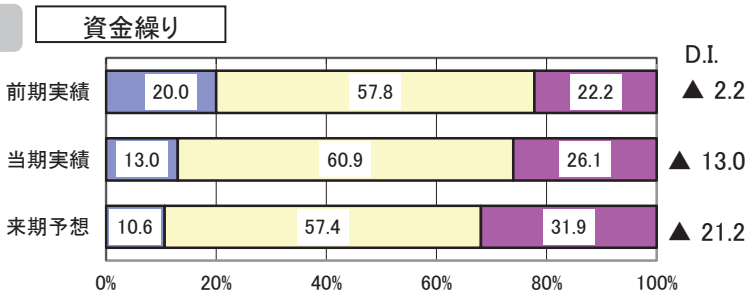
当期の収益判断D.I.は▲34.7と、対前期比7.5ポイントの改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲17.3と、1～3月期から31.5ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲44.6と、9.9ポイント低下し、厳しい水準となる見込みです。





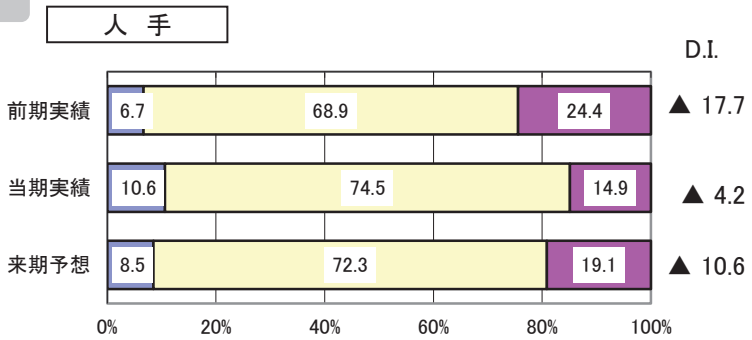
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲13.0と、対前期比10.8ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲21.2と、8.2ポイントさらに低下をする見込みです。



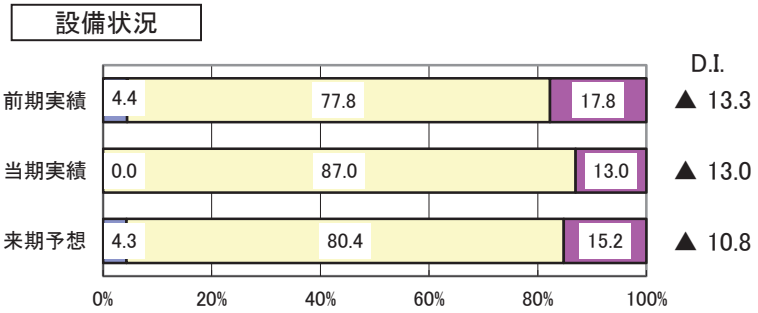
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲4.2と、対前期比13.5ポイントの2桁改善となり、マイナス水準ながらも、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲10.6と、6.4ポイント低下するものの、今期同様、最も良い水準の業種となる見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲13.0と、対前期比0.3ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲10.8と、不足感は小幅緩和をする見込みです。



調 査 先 の コ メ ン ト

○多少まとまった受注があったが継続性はなく単発なので、6月以降、売上が減少するのではないかと思っている。

○建設業界はオリンピック関連の建設事業が終わり、大手ゼネコンが中堅案件まで参入してる。その受注競争で価格が急落しており、非常に厳しい受注環境にあるため、数字が読めない。

○県をまたいで事業を行っているので政府のコロナ対応に振り回され続けています。先行きは予測が見通せないので、あまり良い状況とは言えませんが、出口戦略に希望を持って進んで行きます。

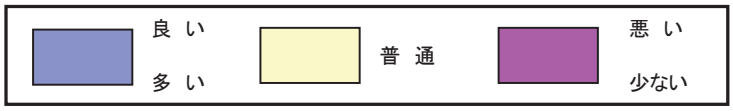
○思っていた以上に売上が減少し利益がかなり落ち込んできています。今現在、打つ手もありません。

経済指標について:貿易統計

貿易統計は、サービスを含まないモノの輸出入の動向を把握できる統計で、財務省から毎月発表される統計です。4段階で公表される公表値のうち、当該月の翌月20日前後に発表される「速報」の注目度が高く、貿易統計はこの「速報」を指すと言えます。公表日が当該月の翌月末である他の主要経済指標より公表が10日早いことから高い速報性を備えており、貿易統計で発表される「貿易収支」・「輸出」・「輸入」の動向のうち、「輸出」はＧＤＰと概ね連動しており、景気循環との連動性も高く、景気に対する先行性もあると言える経済指標です。このように、貿易統計は景気動向の先読みに役立つ経済指標の一つと言えるでしょう。

小 売 業　　回答企業　118社（回答率：100.0%）

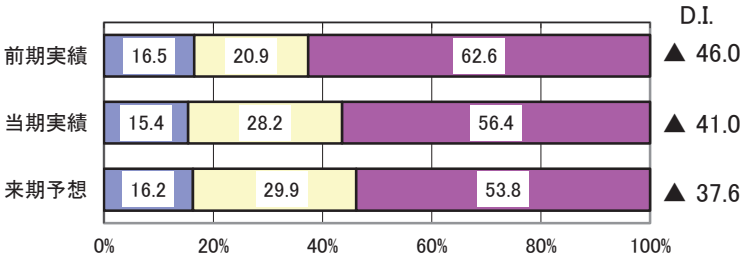
当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲41.0と、対前期比5.0ポイントの改善となりましたが、卸売業に次いで厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲37.6と、3.4ポイントさらに小幅改善をしますが、今期同様、卸売業に次いで厳しい水準の業種となる見込みです。

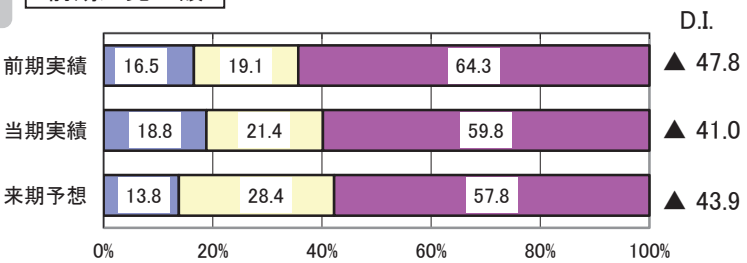
業　況



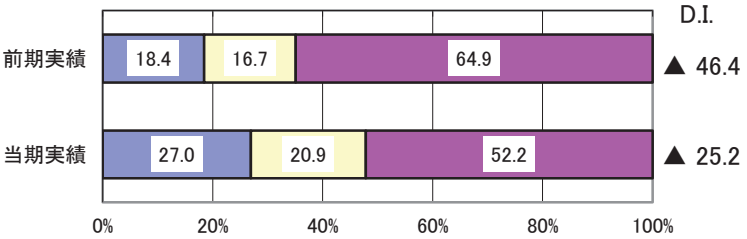
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲41.0と、対前期比6.8ポイントの改善となりましたが、最も厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲25.2と、1～3月期から21.2ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲43.9と、2.9ポイント低下し、今期同様、最も厳しい水準の業種となる見込みです。

前期比売上額



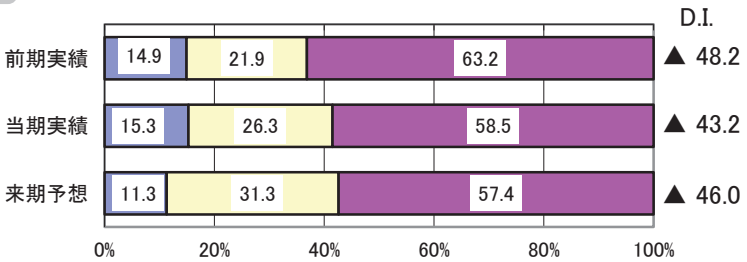
前年同期比売上額



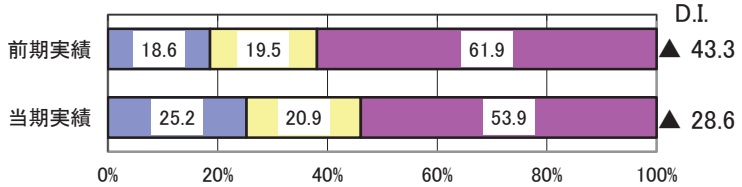
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲43.2と、対前期比5.0ポイントの改善となりましたが、最も厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲28.6と、1～3月期から14.7ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は▲46.0と、2.8ポイント低下し、今期同様、最も厳しい水準の業種となる見込みです。

前期比収益

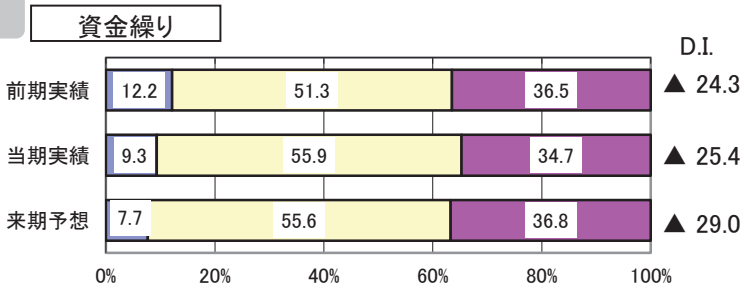


前年同期比収益



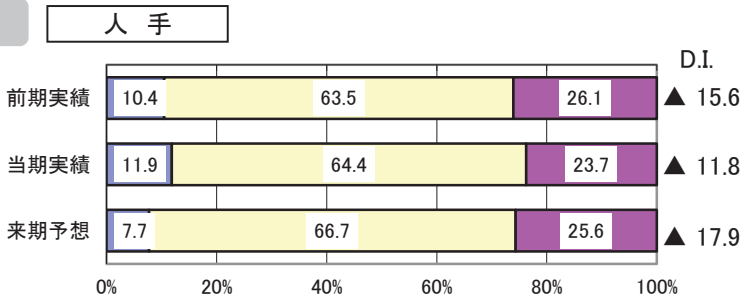
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲25.4と、対前期比1.1ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲29.0と、3.6ポイントさらに低下をし、最も厳しい水準の業種となる見込みです。



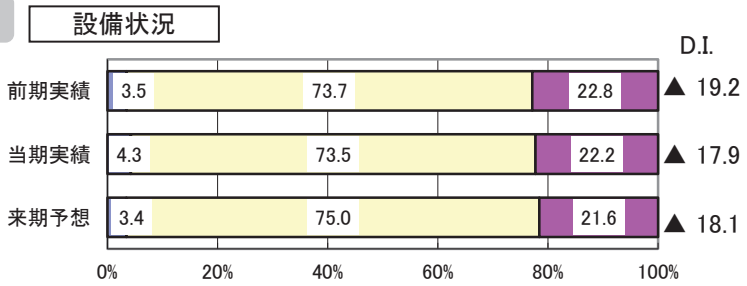
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲11.8と、対前期比3.8ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲17.9と、6.1ポイント低下し、人手不足感は強まる見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲17.9と、対前期比1.3ポイントの小幅改善となりましたが、サービス業とともに、最も低い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲18.1と、不足感は小幅に強まる見込みです。

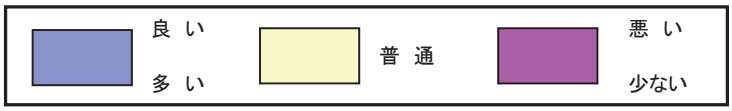


調 査 先 の コ メ ン ト

○昨年と比べ客数はやや増加傾向だが、純利益としては予想よりも回復せず資金繰りに困っている。
○現在、半導体の不足により車両生産が縮小していて、注文をいただいてもオーダーできないことが発生しています。
○設備投資に意欲・関心を持つ経営者が増えてきたように見受けられます。
○コロナ感染症対策が速やかに行われ、経済活動が活発化することを願っています。
○コロナ感染拡大防止対策は、緊急事態宣言等の時限的な対策であるため、市民の心理的な疲弊が気にかかる。安心して販売活動が行えず売上減が長引くことが懸念される。
○観光客は全く来ないですが、地域のお客様に助けられ、何とか業績が上向き改善したことは驚愕でした。不景気にも強く攻めるため商品のラインアップを多くしたことが良かったのだと思います。
○県からまん延防止等重点措置が出ているために通常営業ができず、かなり辛い状態が続いている。
○とにかくコロナが早く終息しないと経済が回らなくて困ります。
○今期は昨年休業したため、例年と比べたら悪いが去年比は良くなった。来期はオリンピック（会場が近い）の観客の有無など、現時点では全く予想がつかない事柄が多く、動向が読めないです。
○飲食店への要望(酒類提供の禁止)により食事のみにしていて、売上には少し影響があります。前回同様、協力金の対象とならず営業には苦心しています。景気対策等考えてもらいたいと思います。
○コロナウイルスの終息を願うばかりです。売上は例年の二分の一～三分の一です。
○企業はいつも危機感を持って経営しており、それを元に成長を狙っていると思います。時代にあった仕事をしていけば生き残れると思います。

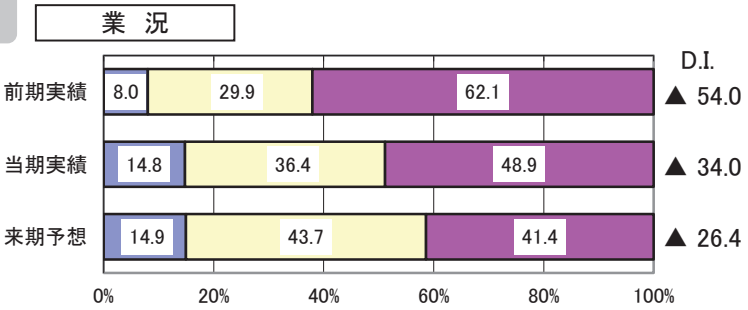
サービス業　　回答企業　89社（回答率：100.0%）

当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）



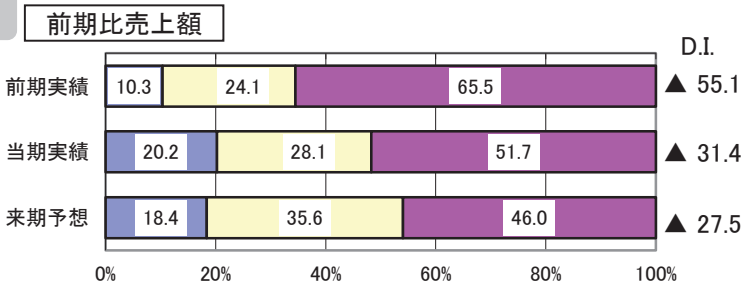
1. 業　況

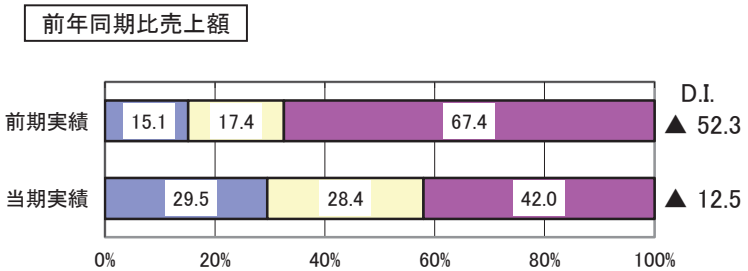
当期の業況判断D.I.は▲34.0と、対前期比20.0ポイントの大幅改善となり、マイナス水準ながらも、改善幅が最も大きな業種となりました。来期予想については、D.I.は▲26.4と、7.6ポイントさらに改善をする見込みです。



2. 売上額

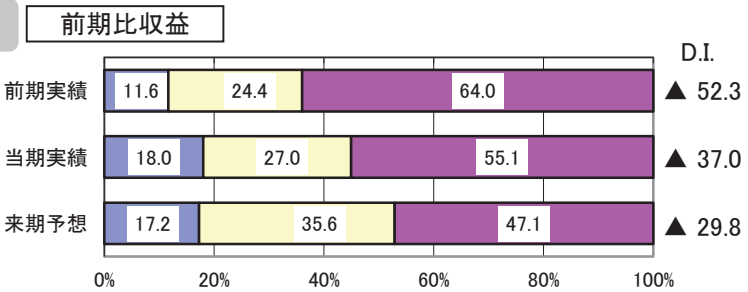
当期の売上額判断D.I.は▲31.4と、対前期比23.7ポイントの大幅改善となり、マイナス水準ながらも、改善幅が最も大きな業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲12.5と、1～3月期から39.8ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲27.5と、3.9ポイントさらに改善をする見込みです。

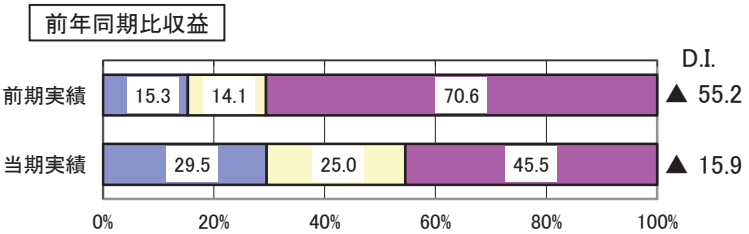




3. 収　益

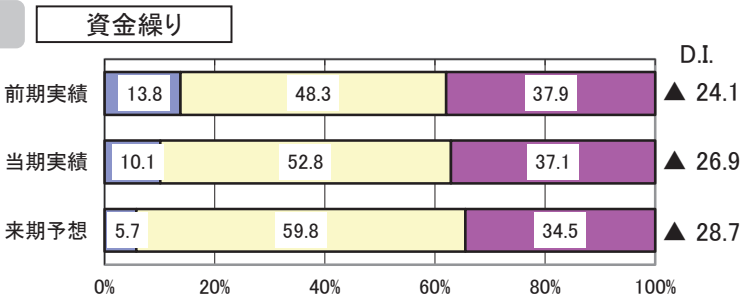
当期の収益判断D.I.は▲37.0と、対前期比15.3ポイントの2桁改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲15.9と、1～3月期から39.3ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲29.8と、7.2ポイントさらに改善をする見込みです。





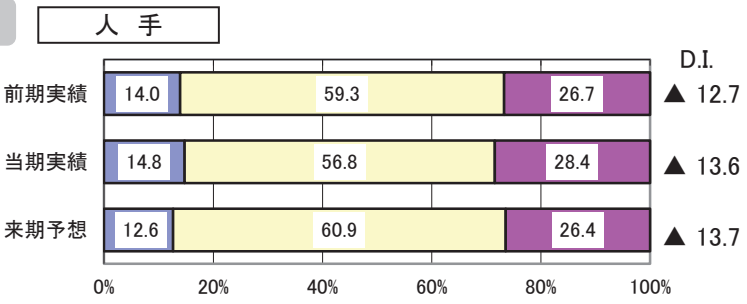
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲26.9と、対前期比2.8ポイントの小幅低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲28.7と、1.8ポイントさらに小幅低下をし、今期同様、厳しい水準となる見込みです。



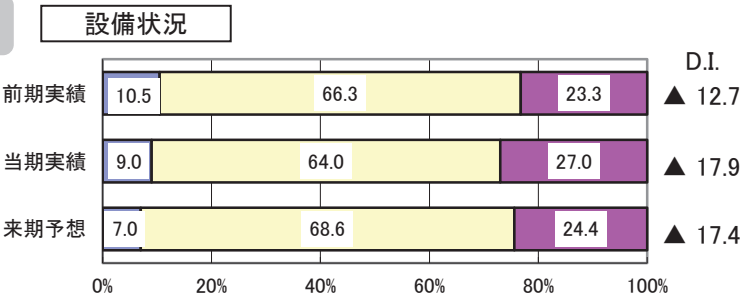
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲13.6と、対前期比0.9ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲13.7と、人手不足感はほぼ横ばいの見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲17.9と、対前期比5.2ポイントの低下となり、小売業とともに、最も低い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲17.4と、不足感は小幅緩和する見込みです。



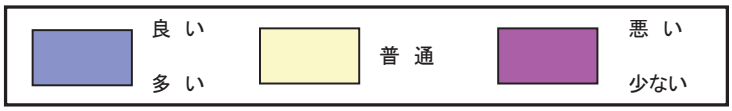
調査先のコメント

○ますます厳しい環境となっており、今後の見通しがつきづらい状況となっていますが、今現在の日々を大切に経営努力を継続していきます。
○消費がかなり減少している。
○コロナの関係で自動車、野菜、飲料水等の輸送に直接関連してきて売上が激減した。
○コロナ禍の長期化で、段々と経営が悪化している。
○コロナ対策には特に不満を持っていて、業種等で不平等を実感しています。この時期に中小の入替・再編など有り得ません。国内のデフレ対策をしっかり実感できる政策ができておらず、非常に苦しんでいます。
○新しい生活スタイルの流れが定着してきているように感じられる。

建 設 業

回答企業 94社（回答率：97.9%）

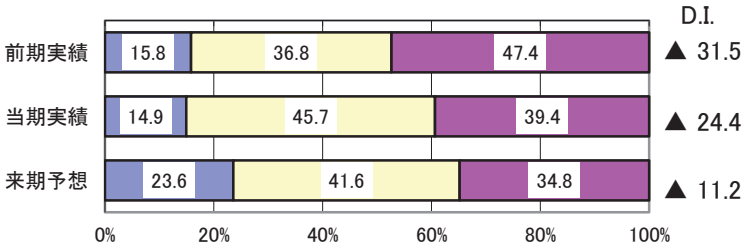
当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲24.4と、対前期比7.1ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲11.2と、13.2ポイントさらに2桁改善をする見込みです。

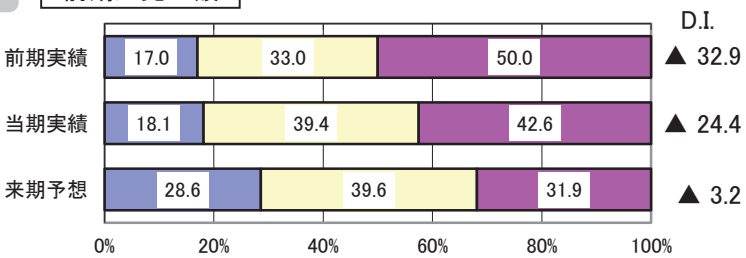
業 況



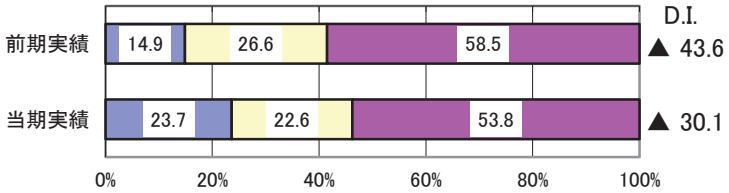
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲24.4と、対前期比8.5ポイントの改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲30.1と1～3月期から13.5ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は▲3.2と、21.2ポイントさらに大幅改善を見込んでおり、最も改善幅が大きくなることが見込まれる業種です。

前期比売上額



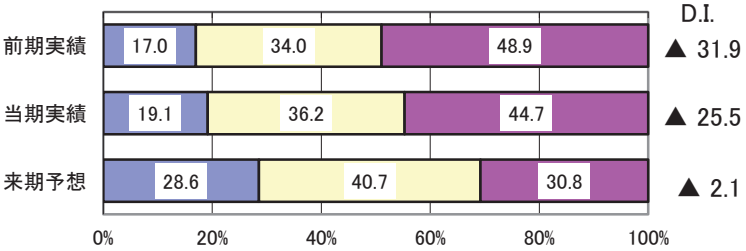
前年同期比売上額



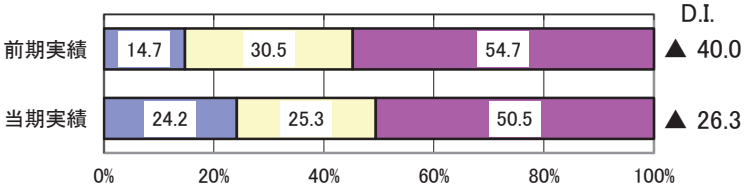
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲25.5と、対前期比6.4ポイントの改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲26.3と、1～3月期から13.7ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は▲2.1と、23.4ポイントさらに大幅改善を見込んでおり、最も改善幅が大きくなることが見込まれる業種です。

前期比収益

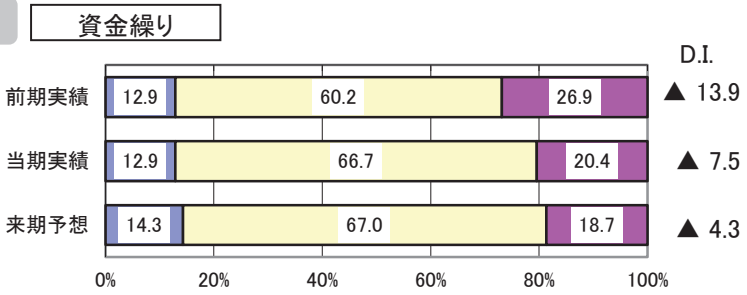


前年同期比収益



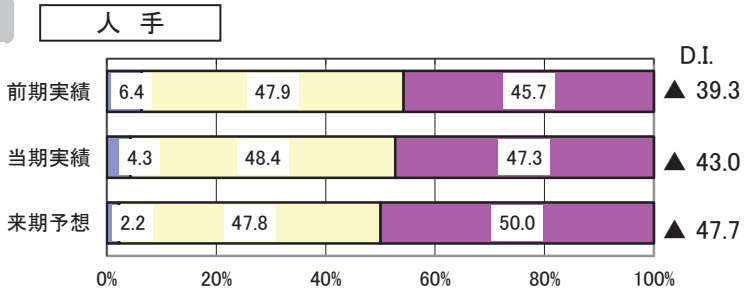
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲7.5と、対前期比6.4ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲4.3と、3.2ポイントさらに小幅改善をする見込みです。



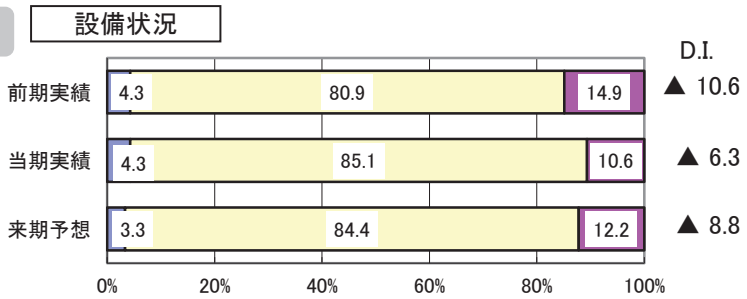
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲43.0と、対前期比3.7ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲47.7と、4.7ポイント低下し、人手不足感はさらに強まる見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲6.3と、対前期比4.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲8.8と、2.5ポイント低下し、不足感は小幅に強まる見込みです。



調 査 先 の コメント

○慢性的な建設業の人手不足により有資格者の人件費の高騰が起きて、新規雇用及び雇用の維持が難しくなってきている。より一層のコストカットを検討する必要がある。

○今期は久々に高い純利益を計上できたため、社員達に期末手当を支払うことができ、重機、車両等も自己資金で買い替えることができました。仕事面では、横須賀、湘南地区方面は官公庁以外は仕事がなく、民間工事（ゼネコン）等は横浜、川崎方面しかないような状況です。

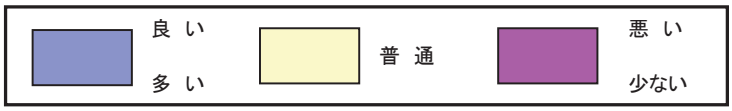
○昨年からのコロナ禍が第４波となり、今はワクチン接種のニュースがメディアや新聞で連日報道されている。今年も追加の事業者支援策がありますが、市民に対するプレミアム商品券等の施策がない。これだけ終息が見えないと、市民（国民）に対しての支援策を何かお願いしたい。

○住宅についてはやや上向きであり、ホテル、商業施設、オフィスビルについては下落傾向で、リフォーム系については上昇傾向である。

○ウッドショック（木材の入手が困難になり価格が高騰）による影響が長期化した場合、先行きが不安。見通しが立たない。

不動産業　　回答企業　54社（回答率：100.0%）

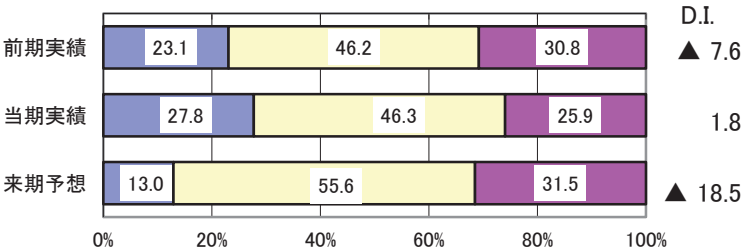
当期実績（2021年4 ～6月期実績）
来期予想（2021年7～ 9月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は1.8と、対前期比9.4ポイント改善し、全業種の中で唯一プラス水準に転じました。来期予想については、D.I.は▲18.5と、20.3ポイントの大幅低下となり、再びマイナス水準に転じる見込みです。

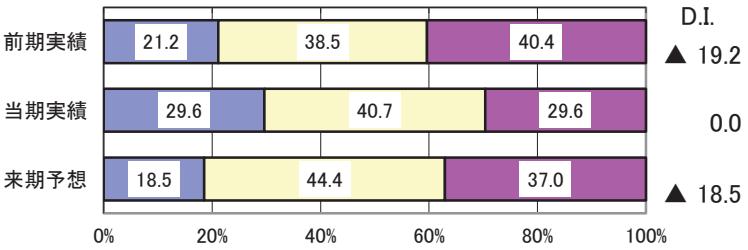
業　況



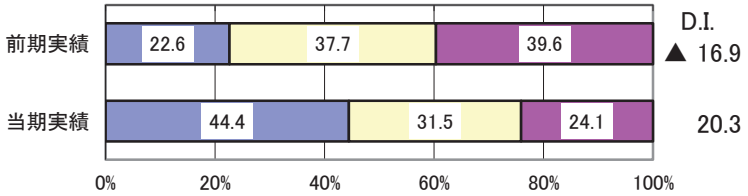
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は0.0と、対前期比19.2ポイントの2桁改善となり、最も良い水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は20.3と、1～3月期から37.2ポイントの大幅改善となり、全業種の中で唯一プラス水準に転じました。来期予想については、D.I.は▲18.5と18.5ポイントの2桁低下となり、再びマイナス水準に転じる見込みです。

前期比売上額



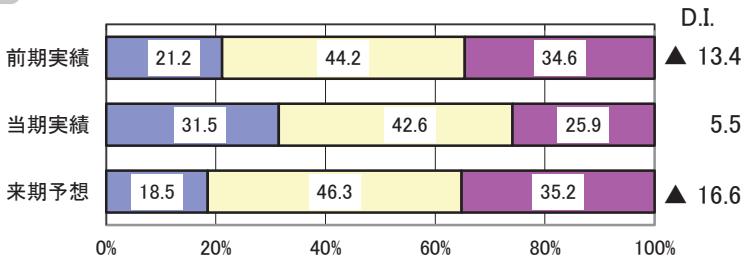
前年同期比売上額



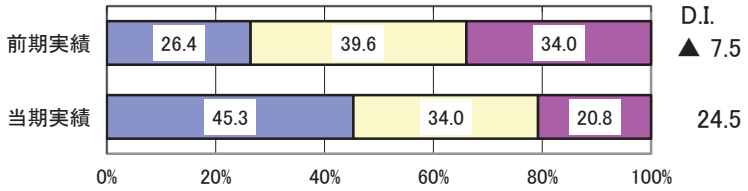
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は5.5と、対前期比18.9ポイントの2桁改善となり、全業種の中で、唯一プラス水準に転じました。対前年同期比の収益判断D.I.は24.5と、1～3月期から32.0ポイントの大幅改善となり、全業種の中で唯一プラス水準に転じました。来期予想については、D.I.は▲16.6と、22.1ポイントの大幅低下となり、再びマイナス水準に転じる見込みです。

前期比収益

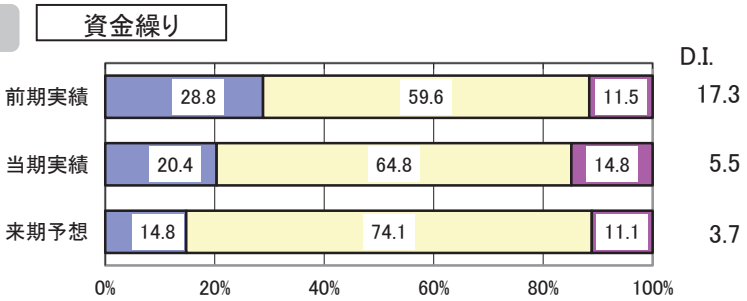


前年同期比収益



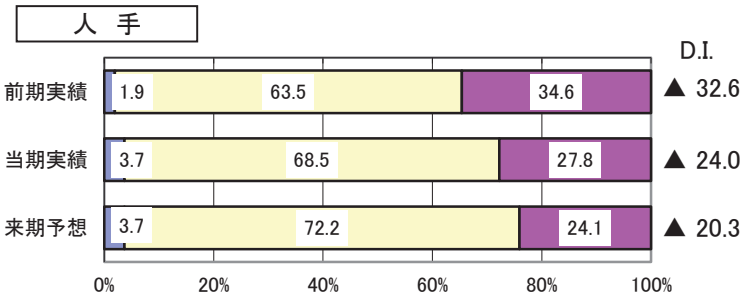
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は5.5と、対前期比11.8ポイントの2桁低下となりましたが、プラス水準を維持し、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は3.7と、1.8ポイントさらに低下をする見込みです。



5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲24.0と、対前期比8.6ポイントの改善となりましたが、建設業に次いで厳しい水準となりました。来期予想については、D.I.は▲20.3と、人手不足感は小幅に緩和する見込みです。



調査先のコメント

○コロナウイルス感染拡大に続き木材不足による影響が懸念される。

○引き続き、物件価格の高止まりから仕入れに苦慮している。

○国内ではワクチン接種が思いのほか進んでおらず、東京オリンピック・パラリンピックの開催についても否定的な意見が増えているように感じています。ウィズコロナを踏まえて、日本全体の経済活動が活発化してくるには、まだ時間が掛かりそうだと思っています。そんな中でも不動産業界は、住宅ローン減税や低金利など政府の緩和政策に支えられ、消費者が住宅取得に前向きになれる（不動産が取引される）要因となっており恩恵にあずかっています。また、都内・都心近郊では、相変わらず投資・投機的な不動産取引が活発なようで、湘南エリアもしばらくは、そういった需要が潜在的にありそうです。

○コロナウイルス感染症の影響により、リモートワークが定着しつつあり、湘南エリアで物件を探している人が多い。商品物件が少なく、どこの業者も仕入れに苦労している。

○建設、不動産業界においては、前回に引き続き4月～5月は緊急事態宣言の延長、まん延防止等重点措置の延長により客足が減少したこと、また、土地売買の減少による在庫不足及び木材の輸入減少による材料不足等が重なり景気は低迷している。7月以降は徐々に回復すると思われます。

○まん延防止等重点措置等で人手が少なく、業務も少なめです。

特別調査 ・・・・・・・・・・・・「中小企業の事業継続について」

1. 御社は、現下の状況を受けて、事業継続についてどう感じていますか。また、御社の業歴についてお答えください。

事業継続についてどう感じているかについては、「強く危機を感じている」が74社、「やや危機を感じている」が227社で危機を感じているとの回答が約6割を占めた。一方、「むしろ好機と感じている」との回答も21社あった。業歴については、「50年以上100年未満」が171社で最も多かった。「100年以上」の業歴の会社は16社あった。

2.御社では、事業継続を困難化させる要因について、どのようなリスクを重視していますか。

事業継続を困難化させる要因については、「仕入や調達の困難化」が135社と最も多く、次いで「従業員の参集不能」が127社と多かった。一方、「特にリスクは意識していない」との回答が127社あった。

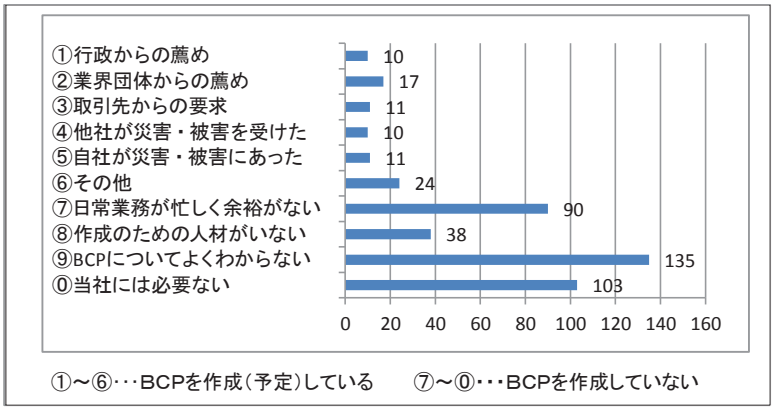
（最大3つまで複数回答）

3.御社では、災害に備え、どのような対策を取っていますか。

災害に備え、どのような対策を取っているかについては、「損害保険への加入」が240社と最も多く、次いで「技術や情報のバックアップ」が126社、「社内の連絡体制の整備」が121社と多かった。一方、「特に対策は取っていない」との回答が86社あった。（最大3つまで複数回答）

4.御社が事業継続計画（BCP)を作成（予定を含みます）している場合は、そのきっかけについて、作成していない場合は現在の状況についてお答えください。

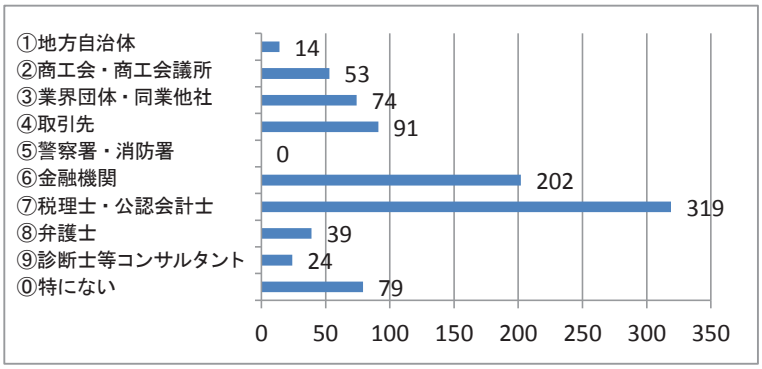
事業継続計画（BCP)を作成している場合のきっかけについては、⑥「その他」が24社、②「業界団体からの薦め」が17社と比較的多かった。作成している（予定している）会社は83社で、回答企業の2割弱であった。作成していない場合の現在の状況については、⑨「BCPについてよくわからない」が135社と最も多く、次いで⓪「当社には必要ない」が103社と多かった。⑦「日常業務が忙しく余裕がない」との回答も90社と多く、事業継続計画作成の課題の1つと思われる。



5.御社では、事業継続にあたって、常日頃から頼りにしている相談先はありますか。

事業継続にあたって、常日頃から頼りにしている相談先については、⑦「税理士・公認会計士」が319社と最も多く、次いで、⑥「金融機関」が202社と多かった。一方⓪「特にない」との回答が79社あった。

（最大3つまで複数回答）



お客さま景況インタビュー

インタビュー日付
2021 年 6 月 1 日

株式会社カミノキ　～最新の技術と設備で高精度な製品づくりへの挑戦～

代 表 者　：代表取締役　横塚　寛
本社所在地　：横浜市鶴見区北寺尾７－１－９
工　　場　：鶴見工場（横浜市鶴見区北寺尾７－１－９）
　　鴨居工場（横浜市緑区白山１－15－17）
創　　業　：昭和 28 年 4 月
事 業 内 容：プラスチック製工業部品、フッ素樹脂関連事業、
　　半導体関連事業、プラスチック製品成形加工

Ⅰ．経営方針・モットー・特色

当社は創業以来「できないことをできるようにする」を理念に掲げ、メーカーとしての道を真摯に歩んできました。68 年経った今、この理念は当社の社風として根付いており、お客さまが他社でできないと言われた相談を受けた場合、簡単には諦めず満足頂ける製品の提供へとつなげることに挑戦し続けています。この他社ではできない製品づくりを支えているのが、当社の特徴である最新設備の導入・刷新、成形と加工における高度な技術やノウハウ及び新技術の習得・蓄積、各部署連携による一貫生産体制です。

Ⅱ．景況について

部品製造業の景況は当社を含めて回復傾向にあると感じています。当社主力商品である半導体関連部品事業については現況活況であり、当面の間の受注は活発な状況です。また、当社フッ素樹脂関連事業の一つであるイオン交換膜のベース材の受注も安定的かつ増加傾向にあります。この交換膜は、飲料水等の浄化に使用されるもので今後途上国等での需要が期待されています。当社受注状況以外では、取引先よりの情報で電気自動車関連部品の受注が好評であるとのことです。

現在の厳しいコロナ禍において各企業は業績不振に苦慮していますが、そのなかでも技術の高度化や環境への配慮等に対する需要は増加しており製造業への期待は高まっていると考えます。

Ⅲ．社員教育の徹底と技術の承継

当社のモノづくりで、一番の要は社員の高い技術力です。製品の精度や生産能力を高めるためには最新鋭の機械の導入も大事です。しかし「できないことをできるようにする」「お客さまに満足頂ける製品の提供」のためにはヒトの技術力が不可決です。熟練した有技術者による機械設定の細やかな調整作業や、機械が不得意とする加工の一部については有技術者の手作業で補完してこそお客さまが求める精度の高い製品の提供が可能になると考えるからです。この考えのもと、当社は社員教育を大切にしてきました。特に新入社員向けの教育をより大切に考え、新入社員に対し先輩社員による半年間のマンツーマン指導を行っています。また、このマンツーマン指導が終わり、一人立ちした後も先輩社員に相談しやすい職場環境・雰囲気づくりを整えてきました。これらの取り組みと合わせて、言葉で説明するだけでは教えることにならない、練習をしっかりしたうえで本番に臨む、失敗も大事な経験、仕事を任せ責任感を養う等の教育方針で社員教育を行ってきました。この取り組みは社員が「作ることの喜び」を得られることを目標にしてきました。これらの教育の環境づくりの結果として、社内の高度な技術力の承継があると確信しています。

Ⅳ. 今後の展望について

半導体の製造過程で使用する樹脂製品では大型化がトレンドとなっています。このトレンドへの対応、より効率的な製造ライン構築のため、大きな敷地への工場移転も検討する必要があると思っています。今後も時代の流れを的確に掴み、お客さまが求める製品を提供出来る樹脂加工メーカーであり続けたいと思います。

令和3年3月1日現在

本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

発　行　かながわ信用金庫
住　所　〒238-0004　横須賀市小川町7番地
TEL　046－826－1515（平日9:00～17:00）
編　集　株式会社　かなしんトータルサービス
住　所　〒235-0023　横浜市磯子区森1丁目10番10号
TEL　045－263－6363（平日9:00～17:00）

かながわ信用金庫
かなしん